

主任という存在

当時は特に満身創痍の状態で毎日毎日本当に辛かった。

どうにかならんかと薫にもすがる思いで院長先生に勧められて、訪れたデイケア。
その時に対応してくれた職員さんが主任でした。

第一印象は「なんて優しい人だ、女神かよ」そう思ったのがいい思い出です(当社比5倍)
主任曰く、「最初は優しいですよ」身をもって知りましたよ。ええ本当に(遠い目)
基本的には毒舌、破天荒、傍若無人というイメージ。
(あくまでイメージです！個人的な見解ではありません！助けてください！)

ですがその実は誰よりも優しく包み込んでくれるような人でした。

「え！？優しい？そんなまさか！？」という声が聞こえてきそうですが(苦情お断り)
さりげなくフォローしたり、精神科という場所なので本来なら傷ついてしまうような事を言
われてしまう場面でも涼しい顔で受け流す。(傷ついてないわけではない)
相手のためを思ってあえて厳しい口調で諭しもするがその後にはきっちりアフターフォロ
ーも忘れないという優しい職員さんです。

ですが一見だとその真意は本当に分かりづらい、なぜならば主任は強烈なツンデレなのです
(独断と偏見)

この事を本人に尋ねても「違います」「私は※自主規制※ですからね」「そんなわけない」
とはぐらかし絶対に認めません。

天邪鬼と言ってしまうえばそうなのですが、それよりも私はツンデレだと思いました。

そんな優しい職員さんが3月15日をもって三浦メンタルクリニックを退職されるという
事でこの記事を書こうと思った、書きたいと思った。

全体としても個人としても主任がいなくなるのはかなりの痛手である。

自分でも思っていた以上に精神的支柱を支えてくれてたんだなぁと痛感した。

それでもやっていかなければいけない。

トライアルアンドエラーを繰り返し、スタッフさんとメンバーとで高めあっていければ
いいと思う。

コントのようであり漫才のようであり落語のようでもあるあのやり取りが
もう見られなくなるのは寂しいです。

願わくは彼女の新たなスタートが、チャレンジが幸せであるように
頑張れ主任！ 私も頑張ります！